

「友達に助けを求められて、知らん顔なんてしてられるか！」～ジャイアンセリフ～

2025.11.4 校長 西谷 秀幸

皆さんは、「ドラえもん」に出てくるキャラクターの中で誰が一番好きですか。きっとドラえもんが一番多いのではないかと思います。では、ジャイアンのことはどうでしょうか。今日は、その「ジャイアン」の話をしてします。

ジャイアンは、強いだけでなく、乱暴者で、いつものび太たちに意地悪なことをしています。だから、中にはジャイアンのことを好きではない人も多いのではないかと思います。正直なことをいうと、校長先生も、子供の頃は、ジャイアンのことをどちらかといえば好きではありませんでした。

ところがこのジャイアン、映画になると急にかっこ良くなります。強くて友達思いで、頼りになる、そんな男の子に変身するのです。

ジャイアンに対する見方が変わったのは、映画ドラえもん「のび太とアニマル惑星」でのジャイアンのあるセリフを知ったときです。

動物たちが、人間のように話したり歩いたりして暮らすアニマル惑星で、ドラえもんたちはチッポという犬の男の子と仲良くなりました。しかし、地球へ戻った後、アニマル惑星が何者かに攻撃を受けて、チッポが助けを求めてきます。ドラえもんたちは助けに向かうことを決めて、皆が集合場所に集まりましたが、ジャイアンだけが来ません。そこに、大きな風呂敷を持ったジャイアンが遅れて登場し、みんなに向けてこう言ったのです

友達に助けを求められて、知らん顔なんてしてられるか！

素敵な言葉ですね。ジャイアンは、乱暴なところもありますが、本当はやさしい心の持ち主なのです。

実は、去年の11月にも「ONE PIECE」に出てくる赤髪のシャンクスのこんな言葉を紹介しました。

どんな理由があろうと!! おれは友達を傷つける奴は許さない!!!!

2年生以上の人は覚えてくれているでしょうか。

この赤髪のシャンクスのセリフも、そして、今日紹介したジャイアンのセリフも、共通していることがあるのです。もう分かりますね。それは「友達を大切にしている」ことなのです。

さて、皆さんは、友達やクラスの仲間が、いじめられたり、助けを求めたりしてきたときに、知らん顔をしないで、ジャイアンのように助けていますか。もしかしたら、知らん顔をして見て見ぬふりをしたり、一緒になっていじめたりしていませんか。

友達を助けてあげられる人は、いつか自分が困ったときに必ず助けてもらえます。こういう関係を「お互いさま」といいます。反対に、友達をいじめたり、助けを求められても見て見ぬふりをしたりする人は、いつか自分がいじめられたとしても、誰からも助けてもらえなくなります。

世の中は、他人のためにいいことをすれば、自分にも返ってきていいことをしてもらえ、他人に嫌なことや悪いことをすれば、それも自分に返ってきて、自分にも嫌なことや悪いことが起こるようになっているのです。

校長先生は、板五小の皆さん全員が、友達がいじめられたり助けを求めたりしてきたときに、見て見ぬふりをするのではなく、ジャイアンのように、「友達に助けを求められて、知らん顔なんてしてられるか！」と言って、すぐに助けられる人になってもらいたいと思います。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先週は、学校公開、まちたんけん、校内研究会（1年授業研究）など、お疲れさまでした。今回の授業で特に素晴らしかったのは、事前授業を通して、何度も何度も改善を繰り返して、本時を迎えたことです。子供たちに身に付けさせたい粘り強さ、トライ＆エラーを教師自身が実行したことは、今後の授業づくりにも大きな影響を与えてくれました。また、プログラミング教育が教科の学びとは無縁のものではなく、相乗効果をもって子供たちの学ぶ力を身に付けることも改めて実証されたと思います。授業者の中曽根先生、低学年分科会の先生方、ありがとうございました。

さて、運動会を終え、大きな行事をやりきったことや2学期の半ばという时期的なことなどから、子供たちの気持ちがふわふわして、友達関係のトラブルが増えてきました。そこで、「ふれあい月間」ということもあり、今回のような話にしました。

昨年度の同時期は、「ONE PIECE」の赤髪のシャンクスのセリフを通して、友達を大切にする話を話しましたが、今年度は、どんな子供たちにも親しみのある「ドラえもん」の話をすることで、低学年から高学年まで幅広く理解してもらえればと思います。

ジャイアンは、テレビでは乱暴者でも、映画版では、友達思いのいい人物として描かれています。そんなジャイアンの有名なセリフから、子供たちが身近な行動にうつしてほしい願っています。各学年・学級で実態にあわせて、補足をしてください。

【資料1】 「ドラえもん」の名言

ドラえもんの名言は、実にたくさんあるが、以下はその中から選んだものである。

- 一番いけないのは、自分なんかだめだと思ひ込むことだよ。
- きみはかんちがいしてるんだ。障害があったらのもりこえればいい！道をえらぶということは、かならずしも歩きやすい安全な道をえらぶってことじゃないんだぞ。
- 人にできて、きみだけにできないなんてことあるもんか。
- なにかしようと思ったら、そのことだけに夢中にならずにちゃだめだ。
- そこが、きみの悪いところだ！！なにかやってみて、うまくいかないとすぐいやになってしまふ！そんなことでは、いつまでたってもなににもできないよ。
- よくみておくんだね。きみがひるねしてる間も、時間は流れつづけてる。1秒もまってはくれない。そして流れさった時間は二度とかえってこないんだ！！
- 一つだけ教えておこう。きみはこれから何回もつまづく。でもそのたびに立ち直る強さももってるんだよ。
- 過ぎたことを悔やんでも、しょうがないじゃないか。目はどうして前についていると思う？前向きに進んでいくためだよ。
- 「もうダメだ」と思ったら、ゆっくりでいいからあと一歩踏み出してみて。そうやってるうちに、たどり着くから。
- なんでもいいなりになるから悪いんだよ。いやなことはハッキリいやといわなきゃだめじゃないか！
- のび太くんをばかにするということは、ぼくをばかにすることだ。ゆるせぬ！

話は変わりますが、11月10日から、個人面談が始まります。個人面談に来る保護者の中には「何を言われるんだろう…」と不安感でいっぱいの方もいるはずですよ。ですから、「時間をつくって来て良かった」と思える面談にすることが大切です。もちろん、伝えるべきことはきちんと伝えなくてはなりません。ですから、課題面は「事実」で伝えるようにしましょう。先生方には「釈迦に説法」だと思いますが、事実かどうか定かではない内容に担任の「推測」加えて課題面を伝えると、こじれるもとになります。課題は、解決策も同時に伝え、それ以上に、がんばっているところは「事実+担任のプラス評価」でほめて伝えるようにしましょう。

なお、昔の日本教育新聞の記事の概要になりますが、筑波大学の坪田教授（当時）は、「児童の欠点を保護者にどう伝えたらいいか」という質問に、下記のように答えています。参考にしてください。

【資料2】 児童の欠点を保護者にどう伝えたらいいか？

- 何かうちに秘める力を持っていても、それを発揮できずに認めてもらえない子がいる。そんな子に自信をもつ場をつくってあげるのが、本当の教師の力ではないか。
- 一見、欠点に見えることがあっても、それは教師の勝手な見方なのかもしれないし、教師の指導不足からくる「欠点もどき」なのかもしれない。教師はそれが本当にその子の欠点なのか客観的に見て、どうしても直したい点があれば、より具体的に、その子も「なるほどそうだ」と感じるようにタイミングよく言うべき。
- 保護者面談で、1つ注意を喚起したいなら、その倍の2つ良いところが言えるように用意する。